

シーズ発熱体端子部保持装置

実 願 昭 39-72279
出 願 日 昭 39. 9. 11
考 案 者 藤井馨
東京都江東区亀戸町8の180日
立熱器具株式会社内
出 願 人 日立熱器具株式会社
東京都江東区亀戸町8の180
代 表 者 平木健一

図面の簡単な説明

第1図は本考案装置の一実施例を示す保持装置の縦断面図、第2図は従来装置を示す縦断面図である。

考案の詳細な説明

本考案はルームクーラー、電気釜等を使用されるシーズ発熱体の端子部保持装置に関するものである。

従来一般に使用されているシーズ発熱体の端子部保持装置の構成を第2図において説明すると1は金属性外筒、2はシリカ、マグネシア等の無機絶縁物で発熱抵抗線3を埋設して外筒1の外部より圧縮して充填固着したものである。

4は端子棒でその一端は外筒1内に導入しその先端に発熱抵抗線3を接続し筒内入口をシリコンゴム等の耐熱絶縁物5により密封固定してある、

6は絶縁碍子で端子棒4を通貫しシーズ発熱体の端部を覆い支持板7にて保持されている。

8はナットでリード線9を端子棒4に接触することく螺着されている。

従来は以上のごとく構成されているため通電使用中シーズ発熱体が高温になると膨張し外筒軸心方向13へ伸張するため絶縁碍子6が破壊されたり支持板7から外れ落ちたりする等の欠点があった。

本案は上記従来例の欠点を解消すべく考案されたものでその一実施例を第1図において説明すると(従来と同様な部分については同符号で示す)シーズ発熱体の端面部を凹型に形成された金属性キャップ10で支承しそのキャップ10の背面と支持板7との間にシリコンゴム等の可撓性のある耐熱絶縁パッキング11を挿入しその外側面を絶縁板12にて固着するものである。

しかるに本考案によれば通電使用中シーズ発熱体が高温になつて外筒1が軸心方向13へ伸張した場合その伸びはパッキング11により吸収されるため碍子の破損支持板より端子部が外れる等の欠点は除去される。

実用新案登録請求の範囲

本文に詳記することくシーズ発熱体の端部を凹型に形成された金属性キャップで支承しそのキャップの背面と支持板との間に可撓性のある耐熱絶縁パッキングを挿入したことを特徴とするシーズ発熱体端子部保持装置。

図 1

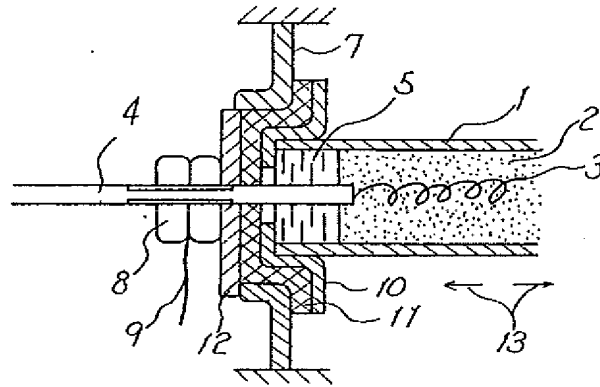


図 2

